

スマート農業ハウス拡大

兼松寒川、第3の柱に

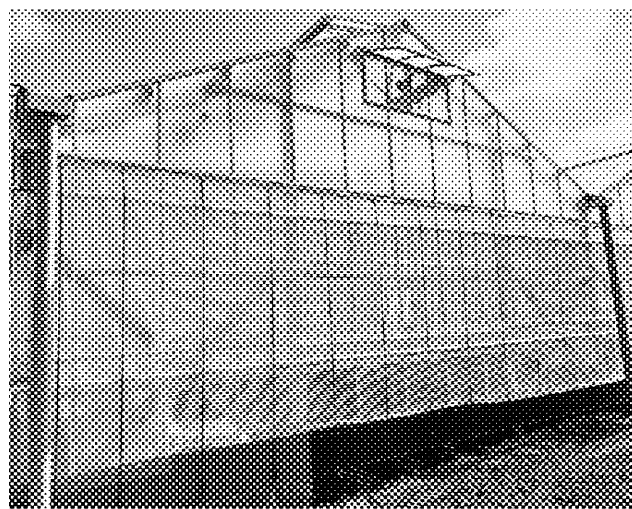
兼松寒川（北九州市八幡東区、大岡正長社長）は、スマート農業ハウスビジネス事業を拡大する。農業事業を鉄鋼、電機に次ぐ第3の柱に位置付け、特殊木材と鋼材などを組み合わせたハイブリッド農業ハウスを提案する。農業散布や作物収穫などを行う複合型農業ロボットも活用する構想だ。売上高は来年度が2億円、5年後には10倍の20億円と年間80棟の販売を目標とする。

ハイブリッド農業ハウスと実証用のハウスは、新規事業を検の2棟を建設した。敷討する企業などに向地面積は2500平方

米。

で販売する。実証を進実証ハウスは資源循環め、農業散布や作物収穫、環境配慮を重視。複合型農業ロボットや生産支材保存処理加工により援、苗なども段階的に防腐・防蟻性能や耐久性を強化した間伐材を活用。これを従来の鋼材などによる構造体と資して従来型の農業ハ組み合わせ、全体の42

木材で構造体／高機能フィルム



特殊木材と鋼材などを組み合わせたハイブリッド農業ハウスを越谷市に建設した

%を木材とした。1棟当たり約13トンの二酸化炭素(CO₂)排出量削減を見込む。天井や側面の被覆資材には、長与するかなどを確かめた複合型農業ロボットをハウス内で巡回させ、農家の負担を軽減する構想だ。

期間の展張が可能で透る。ハウスではイチゴ過率の高い高機能フィルムを使用している。2025年度は木材と農業散布の最適化、IoT(モノのインターネット)による生育状況の把握、作物収穫などの機能を備えた複合型農業ロボットをハウス内で巡回させ、農家の負担を軽減する構想だ。

モデルハウスとして見学も積極的に受け入れる考え。1年後には福岡県でも建設を予定している。ロボット開発はメーカーや地元大学、北九州市、金融機関と連携して推進する。兼松寒川は兼松アドバンスド・マテリアルズ(東京都中央区)の子会社で、産業資材・部品の製造委託、販売を手がける商社。